

觀光國としての素質を完備せると雖も、之に伴ふ道路の完備に俟たねば十分なる價値を發揮する事は出來ぬのである。然し乍ら我國は財政不如意なるが故に必しも京濱國道、若くは阪神國道の如き立派なるものを希望するものに非ず、出來得るとすれば結構であるが、自動車の二三臺も並行して滑かに走れ塵芥、烟幕等の立ざる程度のものにて十分である。道路の改善は獨り外客誘致上多大の效果を齎すのみならず、一般國民の利福を増進し、交通運輸の發展と産業の促進上極めて重大なるものなるが故に、一日も速やかに其の完成を望むものである。

道 路 と 文 化

野 村 兼 太 郎

人類の文化が發展するためには最も必要なことの一つは、違つた文化が互に相接觸することである。恰も個人の進歩が他人との交際に依つて啓發される、ことの多いのと同一である。もし人間の知識が一局部に躊躇されてゐたならば、その文化の發達は到底今日の如くなるを得なかつたであらう。

先づ問題を物質的方面に限定しよう。

原始人が求むる最初の、又現代文明人にとつても根本的な要求は、生きんとする意思である。生存本能の強力なることはあらゆる生物にとつて共通である。しかし人類にとつて特に重要なことは、生きんとする意思が單に生きて居られゝばよいと云ふ程度に止まらないことである。一般生物の生存本能の基礎は同種同族の繁殖にある。石の下から僅かに生へ出る雑草にしても、その目的は同類の増加にある。人間とても生物である限りに於いて例外ではない。古い氷河期の人類が襲ひ來たる寒氣に耐へ忍んでその種族維持に如何に努力したことであらう。生めよ殖えよ地に満てよと云ふ教はその本能の表現である。しかし人類の要求はその點に終るものではなかつた。

もし人類の生産力が餘剰を生じなかつたなら、換言すれば一人の労働力が本人とその家族を維持するに要する生活必需品を生ずるに過ぎなかつたならば、何等の文化をも生じなかつたであらう。然るに人類の生産力には餘裕があつた。最初の餘剰はさらにより大なる餘剰を生ずる手段とされた。即ち多くの他の生物と異なり餘剰は無爲に放棄されずして、何等かの方面に利用されたのである。勿論その多くは新しく増大し來たれる同族の維持のために使用されたであらう。しかしその一部は直接生命維持又はその延長とも見るべき種族維持以外に投ぜられた。そしてこゝに文化的な萌芽を生じたのである。しかもかくして生じた新しき生活様式は次ぎの時代の人類の生活には必要缺くべからざるものとなつて來る。故に人類にとつて生きんとする要求は單に生きてゐること

が出来ると云ふ程度に止まらず、より高き文化生活に參與することの可能と云ふ程度に至るべきものである。文化はこの餘剩に依つて生ずる。他方今日存する社會問題のすべてはこの餘剩あるが故に發生し、又その大部分がかくの如き餘剩を如何に處分すべきやと云ふ問題に依存するものである。

二

人類の生産力の餘剩あることはさらにこゝにその社會の進歩を促がす本能の一つに特殊の性質を附與する。物を獲得せんとする一般的本能はさらにその獲取物に對する選擇行爲を伴ひ、又他方新奇なるものに對する欲求を生ぜしむる。漸次に餘剩を増大せる人類はその獲得物に對する嗜好を複雜ならしめる。しかしもしそれが一地方、一民族に局限されてゐる時はあまり大なる發展を遂げることは出來ない。異つた民族違つた地方に對する知識が増加しこれと交易するに及んで著しき獲得欲の發展を生ずるものである。

かかる獲得欲を満足せしむる方法に二種ある。一つは交換商業であり、他は掠奪である。前者は平和的手段であり、後者は戦鬪的手段である。

商業の發生、即ち市場の起源に關する從來の理論は相敵視する民族間の所謂外部的交換にあると云ふ。即ち民族間の敵視は一般に存在してゐる。ある民族が他の民族が欲するあるものを生産す

る。最初後者は前者に對し戰爭に依つてその欲するものを獲得した。然るに後になつて戰鬪行爲なくしてその欲するものを獲得する方が大なる利益であることを知り、こゝに平和的交易又は半平和的交易を生ぜしめた。もある民族の勢力が他よりも遙かに大である場合には單にそれを貢獻することを命じた。又ある場合には所謂沈黙貿易 (Silent trade) を生じた。即ち貨物をある一定の場所に置いて行くと、他の民族がその後にやつて來てそれに對する報償を殘して持去る方法である。取引者相互に直接面接せずして交易するのである。シユミツドに依ると沈黙貿易はその兩當事者が違つた文化程度にある場合例へば農業民族と森林民族との如く、共通の立場に立たざる者の間に行はるゝ形式であると云ふ。そは何れにしてもかくして一定の時、一定の場所に於いて取引を行ふ市場制度が發生する。

かく商業の發生を經濟的原因に求むる者の外に、他の少しく心理的なるものに存すると主張する人々がある。彼等は原始人の經濟的考慮は比較的後期に發生したものであつて交易の如き現象は原始的贈與の形式から發達したものであると云ふ。本來相敵視せる二民族の間に初期の商業が發生すると考ふることは不可能と云へないまでも、甚だ困難である。第一にある種族は全然戰爭に從事したことのないものがある。第二に初期の戰爭は經濟的原因に基くこと甚だ稀である。第三に初期の交換の大部分が社會的動機に基く。故に單に經濟的利益に基き鬭争を止めて、相敵視する部族が平和的交易をなすに至つたと解するのは不當である。原始民族間には種々なる場合に互に贈

答を行ふ。例へば南濠洲のある種族は儀式に際し贈與をなす習慣がある。又古代獨逸に於いて宗教的儀式に際し商業を行なつたと云はれてゐる。この間に贈答から商業への變遷を覗ふことが出来る。交易が一つの社會的制度として樹立さるゝ以前に、社會關係はより大なる發展を必要とする。そのやゝ發達せる社會に於いて贈與の形式で物品が與へられてゐたのである。

以上二個の商業起源論についてこゝに云々する必要はない。しかし何れにしても合理化せる商業交易の形式に發達する以前に、相當發達せる社會關係の存在したことを恐らく否定し得ないだらう。相敵視する他種族との交渉、又は他所から來た者に物品の贈與をなしたと云ふ事實の基礎には、相隔たれる種族間に相交通せる事實がある。探險家ワイルクスの告ぐるところに依れば、サモア人の慣習としてある種族の食料の貯藏がなくなると近隣の他の種族にこれを求むるために旅に出ることがある。その際彼等は彼等の地方の自然的產物を土産に持つてゆくとのことである。これ等の事實は明かに原始人間の交通がある程度まで存してゐたことを示すものである。かくてこゝに漸次に相互の知識を刺戟し、文化發達の途を作つたのである。故に交易商業の發達が時に掠奪戰爭等の形式に依つて始めたかも知れないがむしろそれよりも一般社會關係の發達に起因するものと見るべきであらう。

異種族との交易——さらに文化が進めば、違つた文化との接觸がこゝにより新しき優秀なる文化を創成する。他部落の火器が已のものよりも優秀であれば、直ちにこれが摸倣を生む。十字軍戦役以後、中世西部歐羅巴の文化は優秀なる東方文化に依つて刺戟された。わが日本が支那と相交通して大化革新以後の文化を形成し、西洋と相接觸して明治維新以後の新文化を發生した。違つた文化と常に相接觸せる西國地方は比較的孤立せる東國奥州地方より常に文化が進んでゐた。

これ等の接觸に際し、又交易について最も必要なことは交通機關の設備である。海上に於ける港灣の設備、陸上に於ける道路橋梁の設備を必要とする。殊に一國の文化の促進にとつて道路網の完成は最も必要である。中世封建社會に於いてはすべて地方的であつた。従つて道路の如きもあまり考慮せられず、文化の發達を著しく妨害した。かつて本誌の他の場合に述べたやうに、中世の道路は諸侯の軍事的政策に妨げられて極めて不便なものであつた。如何に道路の發達が一般に文化の平準を高めるものであるかは古代ローマの大道を見れば解る。歐州全體の主要地を連絡せるローマの大道は本來軍事的目的を以つて建設されたものであつた。然るにこの各地を聯絡する大道に依つて西部及び北部の歐羅巴は所謂文明の餘澤に浴したのである。

道路はその原始的形態に於いては極めて貧弱なものであつたらう。多少の交易が始まつてもなほ舊き踏分け途を利用してゐたに過ぎなかつたであらう。何故ならば多くの自然的障害があり、これに打勝つには多くの労費を必要とするからである。その障害の主要なるものは沼澤、河川、山嶺、不

適當なる地質及び發生物である。殊に初期の人類にとつて最も大なる障害は沼澤地であつた。登り越すわけにゆかない。泳ぐことも出來ない。殆どすべての原始民がそれ等の地方を迂回する方法を探つてゐる。しかし商業の發展するに従ひ又道路の重要性が認められて來ると共に、敢て道路改良の舉に出づるやうになつた。そして道路に授する費用の必ずしも無益でないことを知るやうになつた。前述せる如く、交易は道路に依つて始められる。所謂“Facilities make traffic”である。又他方商業的利益は道路を改良させる。しかし古代に於いて商業が新道路を建設させたことは殆どない。これは商業の社會的地位が低かつたからである。之に反して軍事上その他の理由から道路が建設されたことは少なくない。

何れにしても道路は交易の基礎となり、交易は新しき文化の創造となる。單に物質的方面のみならず精神的方面に於いても同様である。この點より見れば一國の道路の發達如何はその國の文化發展の標準とも見られよう。